

大石産業㈱（大久保則夫代表取締役社長。本社：福岡県北九州市八幡東区桃園2-17-1）は7月23日(月)、千葉市稲毛区のパルシステム千葉で「リサイクル学習会＆モールドパック工作」と題する子供向けイベントを開催した。

現在ヨーロッパやアメリカでは、紙をリサイクルして作る環境に優しい立体緩衝材パルプモールド（モールドパック）が注目を集めている。同製品は、複雑な立体成型が可能で高い緩衝性を発揮し、組み立て不要なため包装作業の作業性向上に役立っている。果物や卵を守る「紙」の包装材として、流通業界において

## 【大石産業】 夏休みの宿題応援 「パルプモールド」をPR 7月キッズイベント開催

も今後はさらに注目を浴びそうだ。大石産業は、同製品の生産、PRに力を入れており、今回のイベントはその一環である。

### イベント概要

『リサイクル学習会＆モールドパック工作』の同イベントには、パルシステムの組合員を対象に大人子供併せて26名が参加。同社稻毛センターの会議室内では、モールドパックの工作が行われた。パルシステムの3R（リユース・リデュース・リサイクル）への取り組みを確認しながら、牛のキャラクター「こんせんくん」をかたどったモールドパックを親子で共に作り上げる、楽しいイベントであった。

和気あいあいとした雰囲気の中、それぞれが実際にモールドパックの原料を使い、工作を楽しんだ。



また、屋外のイベントスペースでは、大石産業の移動式古紙リサイクル工場（トラック）を使つたりサイクル学習会が行われた。このトラックは大石産業が同社の本拠地、北九州より運んだものだ。不要になった新聞雑誌などをトランク内の設備で水に溶かし、重量計測、型に流し込み成型

し、乾燥させモールドを作るという工程をすべてこのトラック内で行える。参加者の親子たちは、大石産業担当者の説明をしっかりと聞きながら、パルプモールドが成型される様子を興味深そうに眺めていた。同社は今後も積極的にこれらイベントを継続していく。